

ホテル西洋 銀座物語  
Hotel Seiyō Ginza Story

3年前の秋、一本の電話が鳴りました。その声の主は、ホテルのどこかを写しとらせて欲しい、そう言いました。電話を受けた広報担当者は、訳がわからず、写しとる？そうおうむ返し。声の主は、酒百さんといい、フロッタージュ《写し取る》という技法で、作品を作り続けているアーティストだとのこと。

今回のテーマは「銀座」で、銀座にあるお店やもののどこかをフロッタージュして、個展を開くのだ、とそういうのです。

《写しとる》…ホテルの印象的な場所…

ちょうどその年は、ホテルの20周年を迎えた節目の年。ホテルの歴史を象徴する場所を選びたい、全員、どこがいいのかと頭を悩ませました。

酒百さんがいつも選ぶ場所やものは、磨り減ったタイルの床の模様や、古びたテーブル、柱の隅など、ほとんどがさして気にもとめられずに長い年月を経た、そういうものだと思います。人々は酒百さんの作品を見て、ずっとそこにあった、けれども気づかずにいた時間や記憶やざわめきやぬくもりを感じるのです。

正面玄関の床の大理石に一箇所だけ、磨り減ったところがあるのをご存知ですか？ホテル開業以来、何百万のお客様をお迎えし、お見送りしてきた、その玄関の大理石。

こうして、フロッタージュは完成しました。実物の大理石にほぼ忠実な色の鉛筆によって写し取られた作品には、なんともいえない温もりと、時空を超えた、確かな存在感があります。

\*館内のある場所に、この作品を展示しています。ご来館の際には、是非探してみてください。また、今秋より、このデザインを取り入れた新しい紙袋がお目見えです。どうぞお楽しみに。